

新幹線協議会第2回定期委員会開催②

委員会宣言 (案)

JR東労組新幹線協議会は、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点などから書面審議により第2回定期委員会を開催した。新型コロナウイルスの感染は、一時落ち着きを見せたが、再度感染者が拡大してきている。苦渋の決断となったが、職場でのたたかひの発言原稿により委員会をつくりだし、向こう一年間のたたかう方針を確認した。

会社は、グループ経営ビジョン「変革2027」を発表し、今後の鉄道による移動ニーズの縮小により、経営への危機感を持ち様々な施策を打ち出している。その一つが「新幹線業務の変革」であり、昨年4月に新幹線統括本部を設置した。私たちはこのような変化や会社の変革と向き合うために、職場からのたたかひで働きがいのある職場をつくりだし、安全な新幹線ネットワークをつくることを目的に、新幹線協議会を発足させた。この1年間、乗務員関係ではダイヤ改正の検証等、車両関係では山形新幹線車両センターにおける「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」「2020年度新幹線総合車両センター業務計画について」等、職場の仲間と要求を練り上げ団体交渉をつくりだした。今後、新幹線における乗務員基地再編についてなど、あらゆる施策を組合員と議論し、働きやすい職場を実現していく。

昨年は、走行中の新幹線のドアが開く事象や、台風19号により長野新幹線車両センターが被災し、車両が水没しただけではなく、多くの人が車両センター事務所に長時間取り残されるなど、命に関わる事象が発生した。初の計画運休も実施されたが、運転再開後の計画や連絡体制の曖昧さから、現場は大きな混乱となった。私たちは、輸送障害対応に弱い現実を受け止めなくてはならない。鉄道は様々な業務の結集で運行されている。だからこそ、問題に対して職場からの議論で原因究明を行い、命を守ることを最大の価値基軸とし、安全な職場をつくりだしていこうではないか。

新型コロナウイルスは世界的に猛威を振り、収束のめどが立たず未曾有の状況となっている。職場では、新型コロナ禍の不安のなか、ライフラインを守るという使命をもって、日々安全・安定輸送を確保している。職場の声を元に議論を積み重ね、安心して働く環境をつくりだしていこう。

一方で、会社の第1四半期決算は赤字となった。JR発足以来、初めての赤字という経営の危機を組合員と共有しなければいけない。同時に「組合員の雇用と利益を守る」ことを第一に、労働組合としてできることは何かを議論しなければいけない。新幹線協議会は、組合員の声を基礎に、コロナ禍の厳しい経営状況を乗り越えるために労使で議論をつくりだしていく。

多くの課題に立ち向かい、解決していくためにはJR東労組の組織強化・拡大をしていくしかない。水戸・東京・八王子地本の仲間たちは、組織破壊によって混乱した職場から再建に向けたたたかひをつくりだしている。新幹線協議会は「新生JR東労組運動宣言」のもと、組織再建に向け共にたたかひっていく。そのために新幹線ネットワークを最大限活用して組合員とのつながりを築き、組織の未来を切り拓こう!

以上、宣言する。

2020年8月30日
東日本旅客鉄道労働組合
新幹線協議会第2回定期委員会